

**令和2年度  
原子力施設等防災対策等委託費  
(高度被ばく医療支援センター及び原子力災害  
医療・総合支援センター業務の実施)  
事業  
成果報告書**

**令和3年3月**

**国立大学法人 長崎大学**

本報告書は、原子力規制委員会原子力規制庁の令和2年度原子力施設等防災対策等委託費による委託事業として、国立大学法人長崎大学が実施した令和2年度「高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センター業務の実施」の成果を取りまとめたものです。

# 目 次

第1章	はじめに	1
第2章	体制の整備・維持	2
2.1	事務局長及び事務局員の配置	2
2.2	医療体制等の整備	2
2.3	「専門家」及び「原子力災害医療派遣チーム」の配置等	4
2.4	「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整体制の整備	5
第3章	教育研修・訓練	6
3.1	自施設職員への研修の実施	6
3.2	「原子力災害医療派遣チーム」の構成員等への教育研修等の実施	9
3.3	高度・専門的な教育研修の実施	9
3.4	自施設職員への定期訓練の実施	10
3.5	「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整訓練の実施	11
3.6	国及び地域の原子力災害防災訓練等への参加及び助言・指導	11
第4章	原子力災害医療関係ネットワークの構築	12
4.1	地域の原子力災害医療関係ネットワークの構築	12
4.2	全国の原子力災害医療関係ネットワークの構築	13
4.3	原子力災害医療専門家のネットワークの構築	13
4.4	地域ネットワーク構築支援	14
4.5	原子力災害医療派遣チームのネットワークの構築	15

(空 白)

## 第1章 はじめに

長崎大学医学部は、安政4年11月12日、オランダ軍医ポンペ・ファン・メールデルフォールトが、幕府医官松本良順をはじめとする12名に対し、オランダ語による医学伝習を長崎奉行所西役所において開始したことを起源とし、その後、大正12年設置の長崎医科大学を構成母体の一つとして、昭和24年に設置された国立大学の中核を支えている。

前身となった長崎医科大学は、昭和20年8月9日、広島に次ぐ第二の原子爆弾により被災した世界唯一の医科大学であり、被災直後から被爆者救護活動を実施している。特に、永井隆博士らの「原爆被爆者救護報告書」や調来助博士による「長崎に於ける原子爆弾傷害の統計的観察」は、つとに有名である。

その後の長崎大学は、原爆被爆者の後障害研究から、昭和61年の旧ソビエト連邦チェルノブイリ原子力発電所事故を契機に、国際レベルでのヒバクシャ医療支援、分子疫学調査にも範囲を広げて活動してきた。さらに平成23年の東京電力（株）福島第一原子力発電所事故後は、今まで長崎大学が原爆被爆者及び旧ソ連邦ヒバクシャを対象として蓄積してきた被ばく医療の実績を活かすべく、事故直後から被ばく医療専門家を派遣し、福島県立医科大学の緊急被ばく医療体制の再構築、福島県民へのリスクコミュニケーション、さらには5月以降からは福島県民健康調査立ち上げなどに奔走してきた。また、平成25年に福島県川内村に長崎大学・川内村復興推進拠点を設置したほか、平成26年には学内に福島未来創造支援研究センターを設置するなどして、福島復興の包括的な支援を継続して取り組んでいる。

平成27年8月26日に改正された原子力災害対策指針では、原子力災害に対応する医療施設等として、これまで指定等されていた初期被ばく医療機関、二次被ばく医療機関及び三次被ばく医療機関をベースとし、名称等を原子力災害医療協力機関、原子力災害拠点病院、高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センターに変更するとともに、それぞれの役割を明確にした。このような原子力災害医療体制の整備の一環として、原子力規制委員会において高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センターの指定を行うため、原子力規制庁では、予めこれら医療施設等の施設要件を定めるとともに両支援センターの公募を行い、長崎大学は両支援センターに応募し、同日付けで国（原子力規制委員会）から指定された。

長崎大学は、東日本大震災により引き起こされた福島第一原子力発電所事故の経験からその教訓を学び、平時から関係者に対する放射線・放射能に関する教育啓発と準備訓練に加えて、被ばく傷病者の受入れを想定した医療体制の整備及び原子力災害に備えた準備を指導する立場として、長崎大学の担当エリアである福岡県、佐賀県、長崎県及び鹿児島県の担当者並びに原子力災害拠点病院の医療関係者等と緊密な連携を図り、原子力災害時の医療体制の構築支援を進めていく。

本事業は、原子力規制委員会により「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」に指定された長崎大学において、「原子力災害医療体制」の構築等に向け、センター運営に係る人材育成・施設維持、高度・専門的な教育研修等を実施するものである。

## 第2章 体制の整備・維持

### 2. 1 事務局長及び事務局員の配置

長崎大学は、「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」の指定を受け、学長直轄の組織として平時から非常時に備える「原子力災害対策戦略本部」を発足させるとともに、支援センター内に事務局長及び事務局主査、看護師、診療放射線技師を専属配置し、支援センターにおける専従職員として業務に当たっている。

原子力規制庁が主催する支援センター事務局長会議に出席し、原子力規制庁及び他の支援センターとの情報共有や情報交換等を行ったほか、担当エリア自治体が主催する原子力防災訓練説明会への参加及び実施に当たっての打合せや相談対応に加え、担当エリア自治体が主催する会議にも参加した。

特に令和2年度は、担当エリア自治体と打合せの実施等により支援体制構築に力を入れて取り組み、被ばく医療関連の会合や会議、講習会等にも参加した。さらに、基幹高度被ばく医療支援センターが実施した原子力防災プレ研修を受講するなど、原子力災害医療（被ばく医療）全般に関する知識と技能の修得に努めた。また、関連する会議、学会等において、原子力災害医療体制に関する説明や長崎大学における支援センターとしての取組、活動実績等を発表した。

このほか、上記学外関係者との対応のみに留まらず、学内においても自施設職員向け教育研修、訓練の企画立案や長崎大学の支援センター構成員による学内会議等を開催した。

### 2. 2 医療体制等の整備

#### (1) 緊急時通信機器等の整備

平成23年3月11日に発生した東日本大震災においては、東北・関東地方を中心に通信網の一部で回線が途絶、あるいは停電等によりPC等の情報通信機器が使用できなくなるなどの状況が生じたため、災害時でも利用可能な通信手段の確保として、学内に衛星電話等の整備を行った。

導入した衛星電話は、BGAN 通信モデムエクスペローラー710、スラーヤ衛星通信モデム Thuraya IPSTAR+、インマルサット衛星携帯電話 IsatPhone 2 及びワイドスターⅡの4台である。機器操作習熟のため、院内の災害訓練・研修等において試用している。

Wi-Fi ルーターについても被災地へ持参できるよう、通信事業者1社のみの運用では不通となる可能性があることから、通信事業者3社のWi-Fi ルーターを導入したほか、派遣チームが活動時において利用するためのノート型PCを2台整備・配置している。

また、平成28年度から新たに統合原子力防災ネットワークシステムを導入したこ

とで、緊急時のみならず平時から関係機関と情報共有を行うことができる体制となり、定期的に原子力規制庁及び支援センター間による定期導通テストにて動作確認を行った。

## (2) 原子力規制庁・支援センター間の情報共有体制の構築

今後の原子力災害時の医療体制をより実効性のある体制とするため、5つの支援センター間の業務の均てん化、情報共有体制の構築など原子力規制庁、5つの支援センター間の連携強化を目的として原子力規制庁が開催する「高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センター事務局長会議」へ出席するとともに支援センター事務局長等と意見交換を行った。

### <開催日順>

- 第1回           開催日：令和2年7月10日（金）  
場 所：長崎大学（テレビ会議）  
出席者：部門長（医師）、支援センター事務局長、事務職員
  
- 第2回           開催日：令和2年9月18日（金）  
場 所：長崎大学（テレビ会議）  
出席者：部門長（医師）、支援センター事務局長、事務職員
  
- 第3回           開催日：令和2年11月26日（木）  
場 所：長崎大学（テレビ会議）  
出席者：部門長（医師）、支援センター事務局長、事務職員
  
- 第4回           開催日：令和3年1月14日（木）  
場 所：長崎大学（テレビ会議）  
出席者：部門長（医師）、支援センター事務局長、事務職員
  
- 第5回           開催日：令和3年3月5日（金）  
場 所：長崎大学（テレビ会議）  
出席者：部門長（医師）、支援センター事務局長、事務職員

## 2. 3 「専門家」及び「原子力災害医療派遣チーム」の配置等

### ○ 専門家及び原子力災害医療派遣チームの配置

各担当県または原子力災害拠点病院等からの要請により、被ばく医療に関する助言・指導を行うことができる専門家及び原子力災害拠点病院等で被ばく傷病者に対する救急医療を提供する原子力災害医療派遣チームを配置している。

### ○ 専門家及び原子力災害医療派遣チームのための資機材等

原子力災害医療派遣チームが使用する車両を更新し、各担当県が行う原子力防災訓練や原子力災害拠点病院で行う原子力災害医療等において使用している。



【派遣チーム車両】

また、長崎大学において保有している GM 計数管式サーベイメータや NaI シンチレーションサーベイメータ等の線量計及び計測器の校正を実施するなど、資機材等の維持管理を行った。

タイベックスーツ、シューズカバー、フェイスシールド及び養生シート等の消耗品を定期訓練や原子力災害医療派遣チーム研修等で使用したため、使用物品の補充を行うなど、在庫管理を行った。

<参考>派遣チームが保有する計測器等

<参考>名称（商品名：メーカー名）	数量
NaI シンチレーションサーベイメータ（日立アロカ TCS-171）	8台
GM サーベイメータ（日立アロカ TGS-133）	15台
ポケットサーベイメータ（日立アロカ PDR-111）	1台
可搬型 NaI ガンマ線スペクトロメータ（EMF211）	1台
可搬型 NaI ガンマ線スペクトロメータ（EG&G degiBASE）	1台
シンチレーション式サーベイメータ（日立アロカ TCS-161）	1台
シンチレーション式サーベイメータ（日立アロカ TCS-172B）	1台
125-I 用シンチレーション式サーベイメータ（日立アロカ TCS-163）	1台
GM サーベイメータ（日立アロカ TGS-146）	5台
ZnS サーベイメータ（日立アロカ TCS-232）	1台

2. 4 「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整体制の整備

原子力災害対策戦略本部事務局は、各担当県または原子力災害拠点病院等への派遣調整窓口として、原子力災害医療・総合支援センター事務局の役割を担っており、学内体制を整備している。

事務局では、担当エリア各県の原子力災害拠点病院及び原子力災害医療派遣チームの情報収集に努めるとともに、担当エリア各県が主催する原子力防災訓練説明会への参加等を通して県、原子力災害拠点病院等との連携を強化した。

ア. 令和2年度 佐賀県原子力防災訓練 第1回全機関会議

開催日時：令和2年8月6日（木）

開催場所：グランデはがくれ

参加者：支援センター事務局長

イ. 令和2年度 佐賀県原子力防災訓練 第2回全機関会議

開催日時：令和2年10月1日（木）

開催場所：佐賀県庁

参加者：支援センター事務局長

ウ. 令和2年度 鹿児島県原子力防災訓練 第1回全機関会議

開催日時：令和2年10月29日（木）

開催場所：ホテルウェルビューかごしま

参加者：支援センター事務局長

## 第3章 教育研修・訓練

### 3. 1 自施設職員への研修の実施

#### ア 第1回自施設職員研修

病院に勤務する医師、看護師、診療放射線技師に対し、令和2年4月10日(金)にアイソトープ実験施設において初心者放射線講習会を行った。

講師は長崎大学原爆後障害医療研究所の教授・教員で研修受講者は6名であった。

#### イ 第2回自施設職員研修

病院に勤務する医師、看護師、診療放射線技師に対し、令和2年5月1日(金)～10月6日(火)にかけて全34アイソトープ実験施設においてビデオによる初心者放射線講習会を行った。

講師は長崎大学原爆後障害医療研究所の教授・教員で研修受講者は66名であった。



#### ウ 第3回自施設職員研修

病院に勤務する看護師に対し、令和2年12月8日(火)にアイソトープ実験施設において第1回看護職向け放射線に関する講習会を行った。

講師は長崎大学の教員で研修受講者は29名であった。



#### エ 第4回自施設職員研修

病院に勤務する医師、看護師、診療放射線技師に対し、令和3年1月8日（金）～1月15日（金）にかけて全3回アイソトープ実験施設においてビデオによる初心者放射線講習会を行った。

講師は長崎大学原爆後障害医療研究所の教授・教員で研修受講者は25名であった。



#### オ 第5回自施設職員研修

病院に勤務する診療放射線技師に対し、令和3年1月14日（金）に歯学部会議室において原子力災害医療体制及び放射防護・汚染拡大防止について講習会を行った。

講師は長崎大学の看護師で研修受講者は19名であった。



カ 第6回自施設職員研修

九州圏内の原子力災害拠点病院等の看護師に対し、令和3年1月29日（金）にWebにより、第1回看護職向けシリーズ研修「原子力災害医療における看護」を行った。

講師は長崎大学の看護師で研修受講者は19名であった。



キ 第7回自施設職員研修

病院に勤務する看護師に対し、令和3年2月10日（火）にアイソトープ実験施設において第2回看護職向け放射線に関する講習会を行った。

講師は長崎大学の教員で研修受講者は29名であった。



#### ク 第8回自施設職員研修

病院に勤務する医師、看護師、診療放射線技師及び事務職員に対し、令和3年3月26日（金）に被ばく医療総合研修センターにおいて、高度被ばく医療支援センターと原子力災害医療総合支援センターが果たすべき役割や放射線及び放射線影響に関する基礎研修を行った。

講師は長崎大学名誉教授、長崎大学病院放射線部の診療放射線で受講者は56名であった。

また、コロナ感染拡大防止の観点から集合研修に加え、動画で視聴した。



### 3. 2 「原子力災害医療派遣チーム」の構成員等への教育研修等の実施

原子力災害医療派遣チームの構成員が継続的に最新の知見や手技手法を継続的に得ることが出来るように平時から、研修会に参加している。

#### ア 高度専門被ばく医療研修

令和3年2月15日（月）、支援センターの構成員向けに基幹高度被ばく医療支援センターが実施した研修を、教員・医師・診療放射線技師の3名が受講した。

#### イ 体外測定研修

令和3年2月17日（水）、支援センターの構成員向けに基幹高度被ばく医療支援センターが実施した研修を、医師1名が受講した。

#### ウ 染色体分析研修

令和3年2月18日（木）、支援センターの構成員向けに基幹高度被ばく医療支援センターが実施した研修を、教員1名が受講した。

### 3. 3 高度・専門的な教育研修の実施

#### (1) 原子力災害拠点病院の中核人材等に対し行う高度・専門的な教育研修

5つの高度被ばく医療支援センターが実施する全6回の原子力災害時医療中核人材研修のうち、本学は第3回目を担当した。

- ア. 令和2年度 第三回原子力災害時医療中核人材研修  
開催日時：令和2年11月4日（水）～11月6日（金）  
開催場所：坂本キャンパス 保健学科体育館他  
受講生：医師2名、看護師6名、診療放射線技師4名  
外部講師：量子科学技術研究開発機構1名  
：長崎大学 客員教授1名  
講師：本部長、センター長、教授2名、准教授3名、助教5名、  
看護師4名、診療放射線技師2名、専門職員2名  
事務局：支援センター事務局長、事務職員、大学院生

- イ. 令和2年度 模擬甲状腺簡易測定研修  
開催日時：令和3年3月29日（月）  
開催場所：被ばく医療総合研修センター多目的研修室  
受講生：診療放射線技師13名  
講師：部門長

### 3. 4 自施設職員への定期訓練の実施

被ばく傷病者の受け入れを想定した訓練として、令和2年12月25日（金）に除染テント設営訓練を行った。訓練の主な内容は、除染テントの設営場所の確認、設営、情報伝達を行った。

主な参加者は、医師1名、看護師1名、事務職員7名であった。



### 3. 5 「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整訓練の実施

令和3年2月6日（土）に実施される鹿児島県原子力防災訓練に於いて、原子力災害医療派遣チームの派遣調整等を想定した訓練の実施を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。

### 3. 6 国及び地域の原子力災害防災訓練等への参加及び助言・指導

#### (1) 国が主催する原子力総合防災訓練の準備訓練（プレ訓練）

##### ア. 支援センター情報伝達訓練

開催日：令和2年12月16日（水）～18日（金）

場所：長崎大学（長崎市）

緊急時におけるERC医療班との情報共有等を目的として、FAX及びIP電話を用いた通信訓練を実施した。

ERC医療班からFAX及びIP電話を用いて連絡し、支援センターと情報共有を行った。

##### イ. 佐賀県原子力防災訓練全体会議

開催日：令和2年8月5日（水）

場所：グランデはがくれ（佐賀市）

佐賀県原子力防災訓練に関する説明会に参加し、県及び原子力災害拠点病院関係者との情報交換を行った。

##### ウ. 佐賀県原子力防災訓練全体会議

開催日：令和2年10月1日（木）

場所：佐賀県庁（佐賀市）

佐賀県原子力防災訓練に関する説明会に参加し、県及び原子力災害拠点病院関係者との情報交換を行った。

##### エ. 鹿児島県原子力防災訓練全体会議

開催日：令和2年10月30日（金）

場所：ホテルウェルビュー鹿児島（鹿児島市）

鹿児島県原子力防災訓練に関する説明会に参加し、県及び原子力災害拠点病院関係者との情報交換を行った。

## 第4章 原子力災害医療関係ネットワークの構築

### 4.1 地域の原子力災害医療関係ネットワークの構築

#### ア. 地域原子力災害医療連携推進協議会（九州地区）

開催日 : 令和2年9月11日（金）

場 所 : 統合原子力防災ネットワークシステム

内 容 : 長崎大学の担当エリア内の原子力災害医療関係者と原子力災害における医療支援体制の構築に向けた意見交換等を行った。

出席者 : 原子力災害拠点病院 8医療機関20名、行政担当者 4県8名

長崎大学 : 原子力災害対策戦略本部長、高度被ばく医療支援センター長、拠点病院連携部門長、支援センター事務局長、事務職員

#### イ. 地域原子力災害医療連携推進協議会（中国・四国地区）

開催日 : 令和2年9月28日（月）

場 所 : 統合原子力防災ネットワークシステム

内 容 : 広島大学の担当エリア内の原子力災害医療関係者と原子力災害における医療支援体制の構築に向けた意見交換等を行った。

出席者 : 部門長、事務局長、事務局主査

#### ウ. 地域原子力災害医療連携推進協議会（弘前大学担当地区）

開催日 : 令和2年10月2日（金）

場 所 : 統合原子力防災ネットワークシステム

内 容 : 弘前大学の担当エリア内の原子力災害医療関係者と原子力災害における医療支援体制の構築に向けた意見交換等を行った。

出席者 : 部門長、事務局長、事務局主査

#### エ. 地域原子力災害医療連携推進協議会（北陸・中部・近畿地区）

開催日 : 令和2年10月19日（月）

場 所 : 統合原子力防災ネットワークシステム

内 容 : 広島大学の担当エリア内の原子力災害医療関係者と原子力災害における医療支援体制の構築に向けた意見交換等を行った。

出席者 : 部門長、事務局長、事務局主査

オ. 地域原子力災害医療連携推進協議会（福島県立医科大学担当地区）

開催日：令和2年12月14日（月）

場所：統合原子力防災ネットワークシステム

内容：福島県立医科大学の担当エリア内の原子力災害医療関係者と原子力災害における医療支援体制の構築に向けた意見交換等を行った。

出席者：部門長、事務局長、事務局主査

#### 4. 2 全国の原子力災害医療関係ネットワークの構築

全国原子力災害医療連携推進協議会

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の影響で中止となった。

#### 4. 3 原子力災害医療専門家のネットワークの構築

ア. 高度被ばく医療支援センター連携会議

高度被ばく医療支援センターに指定された5機関が、放射線による事故や災害について、放射線被ばくや放射性物質汚染を伴う患者への医療対応（線量評価含む。）のため、連携協力し、人材育成や対応能力の向上に資することを目的として連携協力事項の実施について協議するための高度被ばく医療支援センター連携会議を開催した。

開催日：令和3年1月14日（月）

参加者：高度被ばく医療支援センター長、原子力災害医療・総合支援センター長、支援センター事務局長、事務職員、

開催日：令和3年3月19日（金）

参加者：高度被ばく医療支援センター長、支援センター事務局長、事務職員

イ. 連携会議医療部会

各支援センターが実施した連携会議医療部会において、高度被ばく医療研修に関する検討を行った。

開催日：令和2年10月27日（水）

参加者：部門長（医師）、助教

開催日：令和3年3月11日（木）

参加者：部門長（医師）、助教

#### 4. 4 地域ネットワーク構築支援

令和2年度は、地域の原子力災害医療関係者同士の人的ネットワークとして、以下の会議等に参加し、医療関係者との意見交換を行った。

##### ア. 佐賀県

開催日：令和2年6月8日（月）

参加者：長崎大学 部門長（医師）、支援センター事務局長、事務職員  
佐賀県 健康福祉部医務課係長及び同主査

佐賀大学医学部附属病院 放射線医学講座教授他

内 容：佐賀大学医学部附属病院訪問し、資機材整備に関する打合せを行った。

開催日：令和2年7月29日（水）

参加者：長崎大学 支援センター事務局長、  
佐賀県医療センター好生館 事務職員他  
唐津赤十字病院 医療社会事業課長他

内 容：佐賀県医療センター好生館、唐津赤十字病院を訪問し地域連携推進協議会への参加を依頼した。

開催日：令和2年10月1日（木）

参加者：長崎大学 支援センター事務局長

内 容：グランデはがくれにおいて開催された令和2年度佐賀県原子力防災訓練第1回全機関会議に参加し、関係機関と訓練に関する打合せを行った。

開催日：令和3年3月16日（火）

参加者：長崎大学 部門長（医師）、支援センター事務局長、  
佐賀県医療センター好生館 事務職員他  
佐賀県 健康福祉部医務課係長及び同主査他

内 容：佐賀県医療センター好生館、佐賀県庁を訪問し原子力災害医療に関する次年度の活動内容及び意見交換等を行った。

開催日：令和3年3月17日（水）

参加者：長崎大学 部門長（医師）、支援センター事務局長、  
佐賀大学医学部附属病院 総務課副課長他  
唐津赤十字病院 医療社会事業課主事他

内 容：佐賀大学医学部附属病院、唐津赤十字病院を訪問し原子力災害医療に関する次年度の活動内容及び意見交換等を行った。

#### イ. 長崎県

開催日：令和2年6月26日（金）

参加者：長崎大学 支援センター事務局長、事務職員  
長崎医療センター 高度救命救急センター長他

内 容：長崎医療センターを訪問し地域連絡協議会の協議事項に関する打ち合わせを行った。

#### ウ. 鹿児島県

開催日：令和2年7月1日（水）

参加者：長崎大学 部門長（医師）、支援センター事務局長、事務職員  
鹿児島県庁 暮らし保健福祉部保健医療福祉課 主査他

内 容：鹿児島県庁を訪問し、地域連絡協議会の協議事項に関する打ち合わせを行った。

開催日：令和2年9月24日（木）

参加者：長崎大学 部門長（医師）、支援センター事務局長

内 容：鹿児島県医師会館において開催された、令和元年度鹿児島県原子力災害医療ネットワーク検討会（第1回）に参加した。今年度の検討課題について審議された。

### 4. 5 原子力災害医療派遣チームのネットワークの構築

#### ア. 九州大学病院

開催日：令和2年7月8日（水）

訪問者：九州大学助教

内 容：原子力災害拠点病院である九州大学病院の担当者と原子力災害医療派遣チームの人材育成に関する打合せを行った。

#### イ. 佐賀県、佐賀県医療センター好生館

開催日：令和3年3月16日（火）

訪問者：部門長、支援センター事務局長

内 容：佐賀県行政担当者及び佐賀県医療センター好生館を訪問し、原子力災害医療派遣チームの人材育成に関する打合せを行った。

- ウ. 佐賀大学医学部附属病院、唐津赤十字病院  
開催日：令和3年3月17日（水）  
訪問者：部門長、支援センター事務局長  
内 容：原子力災害拠点病院である佐賀大学医学部附属病院及び唐津赤十字  
          に対し、原子力災害医療派遣チームの人材育成に関する打合せを行  
          った。
- エ. 長崎医療センター  
開催日：令和2年6月26日（金）  
訪問者：支援センター事務局長、事務職員  
内 容：原子力災害拠点病院である長崎医療センターを訪問し、原子力災害  
          医療派遣チーム研修の実施について打合せを行った。
- オ. 長崎県  
開催日：令和3年2月26日（金）  
訪問者：支援センター事務局長、事務職員  
内 容：長崎県行政担当者に対し、原子力災害医療派遣チームの人材育成に  
          関する意見交換を行った。
- カ. 鹿児島大学病院  
開催日：令和3年3月15日（月）  
訪問者：部門長、支援センター事務局長  
内 容：原子力災害拠点病院である鹿児島大学病院を訪問し、原子力災害医  
          療派遣チーム研修の実施について打合せを行った。
- キ. 鹿児島県  
開催日：令和3年3月24日（水）  
訪問者：部門長、支援センター事務局長  
内 容：鹿児島県行政担当者へ原子力災害医療派遣チームの人材育成に関す  
          る打合せを行った。